



9月・取手市議会速報

安全な食と農、環境守り温暖化防止、
便利な交通手段、まちづくりと民主主義を問う

日本共産党

取手駅西口

A街区再開発

工事中のA街区(再開発予定)手前
新装交通広場から右側奥にウエル
ネスプラザ左側に民間マンション
(9月10日撮影)



9月定例市議会は、9月3日開会24日までの会期で始まり、開会日初日に、上程された議案の一部可決後、一般質問が始まりました。

「明るい取手」本号では、5日、6日に行われた日本共産党加増みつ子・遠山ちえ子・本田かずなり議員の一般質問の要旨を紹介します。なお、本議会からは、佐野太一市議の共産党会派離脱により3人の党議員団となりました。



遠山ちえ子 議員

便利な地域公共交通
安全な食と農を求める



党議員の質問

Q コミバス等空白地域・移送サービス・ドライバー不足等の問題解決に向けて、バスをワゴン車に代替して増便の提案をしました。令和2年地域公共交通計画の策定が義務化されたことで、いよいよ市民の移動支援に向けて、計画策定に着手しています。今回、市民・団体・地元事業者・議会等の声を受け止め、市民参画で計画策定するよう求ました。

A 「新しい移動手段の導入検討など、持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指

す」と答弁。

Q 持続可能な食と農の取組では、先ず子ども達に安全な米。農薬・化学肥料の半減使用「特別栽培米」を一定の地区で。暑さに強い米作りの取組。今回の米不足等を受けて安全な農作物をつくる生産者と消費者が支えあう「(仮称)食料・農業市民会議」創設を提案しました。市は、農業の現状では共通認識しているものの具体的な答弁には至りませんでした。今後引き続き取り組みます。

加増みつ子 議員



図書館等複合公共施設整備計画は市民の
意見反映し専門機関での再検討、地権者
には再開発の見直しを求めよ

Q 「A街区再開発」の都市計画決定前に、「図書館等複合公共施設整備計画」についての基本構想・基本計画策定に市民の意見を取り入れ、専門機関での検討を行うこと。

A 市は、教育委員会などとの協議は行ってきた。構想が出来ればパブリックコメントなどで市民の意見を取り入れる。教育委員会は答えず。

Q 都市計画決定に住民の意見を十分に反映することを求めている運用指針に基づくべき

である。

A 規模がそれほど大きくないのでと否定的な答弁。

図書館は教育委員会の所管事項なのに、所管外の都市整備部が、社会教育法や図書館法を蹂躪して再開発を支える計画づくりに奔走。

市民の声に耳を傾けず、所管の専門機関無視で、デベロッパーのもうけ最優先の再開発事業の本質が透けて見えます。

佐野太一議員 日本共産党離党にあたって
ご報告とお詫び

2024年9月3日
日本共産党取手市委員会

9月議会直前の8月29日佐野太一氏より日本共産党を離党したい旨の表明がありました。「取手駅西口開発や公営ギャンブルでの共産党議員団の政策に同調するのは難しい」などを理由とするものです。8月30日日本共産党は、党取手市議団など関係会議を開催し、佐野氏の離党を了承しました。

党取手市議団は、災害対応の為1日遅れの3日開会となった9月議会開会日前日の9月2日日本共産党会派から佐野議員を除く会派の変更届を提出しました。

今年1月の市議会議員選挙で、日本共産党4議席を確保させて頂きながら、一議席を失う残念な結果となりました。この間党取手市委員会は、市議選での公約の実現に向け、主要政策での一致を図る為の努力を続けてきましたが、結果として解決することができず佐野議員の離党となりました。ご支援いただいた皆様に深くおわび申し上げます。

今後3人の党取手市議団は、佐野議員や他党派議員との一致する課題での協力を大事に、皆さまの期待に応えられるよう一層奮闘してまいります。

引き続き皆様のご支援ご協力をお寄せ頂きます様お願い申し上げます。



本田かずなり 議員

市民主体、庁内民主主義の確立、
温暖化防止対策を質す

Q 職員や庁舎内での情報伝達について。

A コミュニケーションができる環境づくりに努め今後も報告連絡相談、情報周知に努める。

Q 市民への情報伝達は市民主体で民主的な市政運営へ十分な説明、真摯に向き合うこと。広報掲載に十分な手順を踏まない掲載があり、既成事実をつくっているのではないかと。

広報やHP、SNSなどの意義や目的をマーケティングの観点から指摘。

A 情報発信や周知が目的でなく、最終的に市民に行動に移してもらうことを目指して

いる。

Q 新型コロナワクチン定期接種についてリスクとベネフィットの情報を明確に。

A 必要な情報を案内していく、国のデータなども掲載していく。

Q 樹木の強剪定は適切なのか

A 市民からの要望で強剪定を行っている。

Q 取手市気候非常事態宣言、地球温暖化防止実行計画に基づく樹木管理を。

A 取手市緑化ガイドライン、緑の基本計画にのっとり市民の安全も考慮し管理していく。

取手駅 西口開発

駅前開発と図書館を考える

シリーズ④



ふじしろ図書館

当初再開発事業に参加を見込んだ20名の地権者が8地権者に減少する中、今年3月に、住宅棟25階建てと非住宅棟5階建て(図書館を核とした複合公共施設導入等)、総事業費は143億円の「A街区再開発事業」計画を公表しました。



手前は10月に地権者の使途開始に向け区画整理最終工事中の再開発事業区域(9月9日撮影)

「A街区再開発事業」
(民間施行)

総事業費143億円から177億円に
市補助金・公共施設導入に事業費大幅増

都市計画決定年明けに

半年後の9月議会で、同計画は、資材高騰と事業の遅延、事業参加者縮小などの影響による見直して、総事業費が177億円(34億円増)に拡大するなど、見直し案の骨格が示されました。

見直して、補助金・公共施設導入に、公費投入は100億円にもなるのか、との加増議員の質問を市は否定しません。今後、さらに補助金と図書館等複合施設導入に係る市の財政投入の拡大が危惧されています。

思いがけない本との出会い 未知の世界開く

駅前開発を考える会
遠藤俊夫

図書館は思いがけない本との出会いの場、未知の世界へ開かれる場、それが図書館の輝き。バードウォッチングのために野鳥図鑑を見に来た利用者が、冒険小説のような題名に惹かれて思わず手に取った『ソロモンの指環』というタイトルの本、それが動物行動学の古典的な名著(コンラート・ローレンツ著/日高敏隆訳/早川書房)だった。また、ここ数年、新着図書コーナーには「ウクライナ」や「プーチン」という文字を冠した本が目立っているが、新刊書はまさに時代や社会を映す鏡です。これらを読むことで未

知の世界に目を開かれ、自分の考えを深めたり、独自の判断や意見をもつことができます、と(元町田市立図書館長守谷氏が雑誌『月刊社会教育』(2024.4)に寄せた小論)。さらに、氏は「図書館は、自らの生活を豊かに、また合理的にしようとする市民を、手助けする仕事であり、主権者としての市民が自ら考え行動することをサポートすることであり、自治体行政を支える基盤となるものだ」とも述べています。取手市は図書館づくりを安直に考えてはいけないうと“警告”しているような気がします。



取手図書館

過熱する候補者乱立の総裁選

テレビ報道 まるで自民広報機関に

自民党総裁選報道は、候補者の地元の盆踊り、これまで見向きもなかった能登半島地震被災地の視察、党所属議員の挨拶周りや、候補者の動向等、異常なテレビ各局の報道が続いています。「自民党の広報機関のようだ」と批判が広がっている

ます。岸田首相が裏金事件や統一協会との癒着で「国民の不信を招いた」などとして総裁選への立候補断念を表明したのに、「誰も裏金事件の真相解明」も言わず、一度は「裏金議員は次の選挙で公認しない」とは言ったものの、裏金議員の票欲しさに沈黙するなど。候補者の誰が総裁・総理になっても自民党政治が変わらないことは、明らかです。

金権まみれの自民党政治を変えるのは、総選挙で金権腐敗に無縁の日本共産党の躍進がどうしても必要です。

日本共産党の躍進で金権腐敗政治一掃を

日本共産党 市議会報告と懇談会

10月6日(日)

14:00 藤代公民館 第3会議室

10月13日(日)

10:00 福祉交流センター(市役所前)



加増みつ子



遠山ちえ子



本田かずなり

私たちが、報告・懇談します。

質問や意見、取手市政などへの注文や要望をお寄せください。



もはやどの候補も「無関係のふり」は通用しない!
白川ただし

(9月5日、しんぶん赤旗より)